

## 令和4年度 日本大学明誠高等学校 自己評価票

### 【本校の目指す学校像】

日本大学の「目的及び使命」にのっとり、明き、浄き、直き、誠の心をもつ、徳性豊かな人格の完成に努める。知性を高め、学問への情熱を養い、個性に応じた能力を最大限までに進展させ、自主性を確立し、相互の信頼と敬愛とにより、協同調和の精神を養い、社会の良き一員たる人材を養成する学校を目指す。

### 【本校の特長及び課題】

希望する生徒全員を日本大学及び難関国公立・私立大学へ進学させることを目標にしながらも、勉学だけでなく、学校行事・部活動にも積極的に参加させることにより、有意義な高校生活を生徒に与え、将来、社会に貢献できる人材になりうるため、高校生としての基本的な生活習慣、知識及び向上心の修得を目指している。自然豊かな環境の中で、充実した学園生活を過ごしている様子が、各種アンケートの結果に表れている。

各教科シラバスを作り、明確な指導目標を設定し指導の充実を常に図りながら、個々の生徒に注目し、生徒一人一人の学力向上を狙っている。また、文化祭でのクラスパフォーマンスや巨大壁画作り、芸術鑑賞教室等を通しての情操教育も重視している。

年間を通じて、立門指導、通学路での登下校指導、校内巡回指導、公共交通機関内での巡回指導、学校全体で生徒指導に取り組み、基本的な生活習慣の確立とマナーの向上、協調調和の精神が養えるように、教職員が一丸となって、教育活動及び学校運営に取り組んでいる。

### 令和4年度の取組結果

#### 【概況】

令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止対策をしっかりと行いながらも、生徒の学校生活が少しでもコロナ前の状態に戻るよう、各種行事の運営に工夫を凝らす1年間となった。文化祭、体育祭、アカデミア明誠、芸術鑑賞教室、2年生の修学旅行、そして昨年度実現できなかった修学旅行に代わる3年生の研修旅行など、多くの行事を通して、生き生きとした生徒の姿が学校に戻ってきた。

1学期末、多くの生徒がオミクロン株に罹患した際には、数日の自宅学習日を設けることで、予定どおり期末考査を実施した。また、3年生の進学に大きく影響する9月実施の基礎学力到達度テストの前には、3年生を中心に自宅学習日を多く設け、万全の態勢で生徒が受験に臨めるようにした。その結果、入学当初から新型コロナウイルスの影響を最も強く受けた学年ではあったが、基礎学力到達度テストの好結果を受け、過去最高の日本大学進学率を達成した。

平成25年度から行っている10年間の学校改革は、4月に新校舎の建設が始まり最終段階に入った。令和6年度には、本校のICT教育に適するように設計された新校舎で「新しい教育」がスタートする。これまでの学校改革を土台にして、これからも、全ての教職員が研さんを重ねながら、生徒の「人間力育成」に取り組んでいくことが求められている。

#### 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」, 「高大接続改革」への対応	<p>新学習指導要領に基づく教育が新1年生から開始され、計画されたカリキュラムどおりに行われている。第1学年では地歴公民において地理総合、歴史総合、公共の3科目を履修することで自分の適性を見極め、2年次からの文系、理系の選択を深く考えて行うことができた。総合的な探究の時間では生徒が探究課題を設定し、周囲と協力しながら課題に取り組むことができた。</p> <p>生産工学部との連携教育として、生産工学部へ進学を予定している3年生を対象とした「情報リテラシー」の講座を対面授業で実施することができた。生徒は対</p>	A

	面授業，課題に意欲的に取り組んでいた。進学予定者 15 名全員が受講した。	
I C T教育への取組	令和 4 年度より全学年にタブレットが導入され，学級活動及び授業で大いに活用されている。第 1 学年の総合的な探究の時間では iPad でインスパイアハイの動画を視聴し，生徒同士で考え方や意見を共有し，新しい価値を発見することができた。生徒は学級活動，委員会活動で iPad を有効に活用している。中でも生徒の学術発表を行うアカデミア明誠や文化祭で動画作成等を行い，情報技術を向上させた。部活動ではスケジュール，活動内容，トレーニング方法を共有するために iPad を有効に活用した。I C T支援員が週一回定期的に来校し，生徒が iPad の使用についての疑問点を聞くことができた。また，今年度より全非常勤講師が 1 人 1 台 iPad を使用できるようになり，全教員がタブレットの操作方法に慣れ，授業の効率化や均一化が進み，教育効果を上げている。諸会議においても，iPad を用いて資料提示の効率化ができ，資料作成の作業が軽減された。全教員を対象とした I C T授業見学会は 6 月 13 日～6 月 27 日，11 月 9 日～17 日の期間で 2 回実施した。授業見学後はリフレクションで意見交換を行い，I C Tを用いた授業の質の向上を行うことができた。	A

#### 学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	各担任が二者面談を実施する中で，学校生活の状況や個々の悩みを確認することにより，いじめの早期発見を心掛けた。7 月と 12 月に三者面談で全校生徒を対象にアンケート調査を実施した。日常では見えない事案を表面化でき初期対応のきっかけにすることができた。「いじめ防止対策委員会」を 2 回開催し，いじめ認定が 1 件あり，問題解決に向けて取り組んだ。その他に生徒間におけるトラブルで上がってきたものは担任・学年主任が生徒・保護者との対応を行い，解消傾向にある。また，「いじめと思われる事案が発生した時のフローチャート」を整え直し，事案が起きた際の流れを確認して組織的に対応に当たることができた。	B
学校生活の充実とマナーの向上	今年度は生徒が自分の判断で適切な行動や姿勢をとっていけるように促すための「生徒心得」であり，「これをしたらダメ」というルールの押し付け的な指導からの転換を図った。 懸案事項だった朝の駅からの直通バスによる登校時間の遅れは，生徒の乗車整理を委託した業者の対応により改善することができた。また，バス乗車を業者に委託することで，教員が駅構内や階段におけるマナー指導を行うことができた。一方，車内マナーや登下校時の通学路におけるマナーに対しての指摘が寄せられることも時々あったため，全校生徒にアンケートを取り，風紀委員会を開催して生徒に校則やマナーについて考える中で，作成したポスターを構内に掲示して啓発活動を行うなど方策を取った。しかし，まだまだ改善が必要である。	B

#### 課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の自発的・自主的な生徒会活動への支援	生徒会指導部では「すべての生徒の活動は生徒会活動」という考え方の下 ①生徒の活動を全力でサポートする ②伝統を維持することの大切さも考えながら新しいことにチャレンジする ③他分掌と協力し，より良い生徒会活動を目指す	B

	<p>という方針で各業務の責任者が中心となり学校行事全般の運営を行っている。ここ数年、生徒の自発的・自主的な活動が活発になっているが、コロナ禍も3年目となったが、できることに少しずつ広がりを持たせることができた。中でも文化祭、体育祭、アカデミア明誠が実施できたことは生徒一人一人が活躍し、成長につながる良い機会となった。生徒会本部役員の生徒たちには指示を待つのではなく自分たちから行動を起こそうという意識が定着してきているので、生徒を教員がサポートしながら、今後も学校行事が生徒の成長につながり達成感を味わい自信につながる場として機能することができるよう指導していきたい。</p> <p>部活動に関しては、遠征や合宿を感染対策に十分に気を付ける中で行えるようになり、少しずつコロナ禍以前に戻り始めていると感じることもあった。顧問の先生方が工夫をし、制限のある中でも最大限の活動ができるよう尽力してくれた。今年度は、ダンス・チア部、体操同好会、スキー部が全国大会へ出場、関東大会へは体操同好会、卓球部、スキー部、ラグビー部、水泳部が出場した。また、水泳部が個人競技で国体へ参加している。今年度も特別予算や、コロナ関連費など柔軟な対応ができ、生徒の活動を支えているので今後も継続していきたい。</p>	
--	--	--

### 進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<p>令和4年度は75%の生徒が日本大学へ進学した。データを用いて分析を行い学年、学級でより具体的な指導を行うように心掛けた。その結果として全生徒のテストへの意識が高くなり、基礎学力選抜で進学する生徒の割合が過去最高となった。</p> <p>本校の生徒は日本大学の進学意欲が強いので、積極的にオープンキャンパスや体験授業などの案内を行った。結果として各学部から本校が附属校で一番多くの生徒が参加していると報告をいただいた。また、早期から面談や集会を繰り返し行い生徒たちが、自身の興味や目標に合った進路実現ができるようなサポートを行った。</p>	A
一貫性のある3年間の進路指導と生徒の学習意欲の向上	<p>今年度もコロナ禍ではあったが、面談やICTを活用してコミュニケーションをとり、情報の共有提供を止めないように工夫した。特に本校では日本大学への進学を希望する生徒の割合が高いので、基礎学力到達度テストの重要性について強調した。放課後には基礎学力到達度テスト対策講座を年間通して行い、夏期、冬期、春期講習でも学習方法から丁寧に指導を行った。</p>	A

### 保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の健康維持と増進	<p>年間行事は、新型コロナウイルス感染症の流行によりスケジュールの変更等を行った。健康診断においては、業者に委託して実施した。コロナ禍であるため、クラスごとに時差登校をさせて、待ち時間を減らすことや生徒同士の接触が少なくなるよう工夫した。健診方法や当日の流れとして、業者と教職員が連携しながら当日の生徒指導を行った。当日の欠席者に対してはフォロー日に受診、もしくは個人で受診させることができた。</p> <p>生徒対象の講座については、コロナの影響により性教育講座が実施できていない。違法薬物講座は、生活指導部主催で1年生に実施した。救命講習会は、教職</p>	B

	<p>員及び卒業前の特別講座として3年生の希望者に毎年実施しているが、今年度においては昨年度同様コロナの影響により実施できなかった。</p> <p>保健だよりは、月に一度のペースで発行した。「生徒相談室だより」は、各学期始めに発行し、カウンセラーの紹介等を行った。</p> <p>それぞれの学校行事に当たっては、事前健康調査を各学年 Classi のアンケートで実施し共有した。未提出や再提出者の追跡に時間を要するので、担任や学年の協力を得てスムーズな調査実施を目指した。</p>	
生徒のボランティア活動・委員会活動の充実	<p>ごみの分別はおおむね良好である。校内外美化活動は、各学年共に年に一度活動できた。</p> <p>校内献血活動については、2・3年生共に希望者募集の前に事前指導を実施（資料配布）した。献血に関する資料を配布し、各自で献血に関する動画も視聴した。事前指導実施により、献血に対する意識付けや献血希望者数も一定数を保っている。献血に参加できない生徒も事前指導を通して献血活動の啓発になっている。</p> <p>3年生を対象として11月14日に実施し、2年生は2月13日に実施した。</p> <p>保健及び美化委員会は誠祭でのトイレ見回りや校内清掃などで活動した。体育祭においても運動部と連携し、手指衛生にも配慮した。委員会活動では、怪我予防指導や救護補助、清掃等の仕事をした。美化委員会は、各行事前に美化週間を設け校内清掃を行うことで、例年よりも活動が充実していた。</p>	A

#### 図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒への読書に対する啓発活動の充実	<p>図書室のスペースが狭く、教室から遠いという立地条件の中で、図書室の利用者を増やし、より環境を整えて魅力のある図書室づくりを目指した。今年度も昨年度同様にコロナウイルス感染対策を行いながら開室した。また、昼休みが40分間に戻ったために、図書委員の図書当番については平常どおり実施した。さらに校外のビブリオバトル大会を図書委員中心に行い、各学年の優勝者をアカデミア明誠に参加させることができた。</p> <p>その中でも以下のような方策を行った。</p> <p>①「図書だより」を毎月発行して、読書の魅力を語り、新着図書情報などを多くの生徒が触れられるようにした。昨年度からはClassiでの配信に切り替えた。</p> <p>②各クラスから購入希望図書を募り、できるだけ多くのリクエストに応えられるよう試みた。生徒だけでなく教員からもリクエストを募った。</p> <p>③アカデミア明誠の中で、ビブリオバトルの各学年の優勝者を発表してもらい読書を身近なものに感じられるようにした。</p>	B

#### 広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
印刷物による広報の充実	<p>広報誌「日本大学明誠高等学校広報」を各学期末に発行した。1, 2学期は8ページ構成。3学期分は卒業式の日付で発行するため短くなる。生徒へ配布すると、すぐに目を通して光景が見られた。写真等も増やしたので、見やすくなっていると思われる。構成までの動きだし、スケジュール作りが遅いため、常にギリギリの到着になってしまった。また、この広報の担当が明確に決まっているわけではないため、原稿・写真選別の依頼がしにくく、一部の教員への負担が大き</p>	B

	なってしまった。次年度はスケジュールに余裕をもって動き出したい。また、細かく担当分けをして各教員への負担を減らしたい。	
ネットによる広報の充実	<p>今年度はホームページを全面的にリニューアルした。トップページに動画を入れ、受験生向けのページを作成した。以前は広報部の教員がホームページの更新を行っており、作業が滞ることが多かったが、今年度から多くの作業を業者に委託したため、更新をスムーズに行うことができた。</p> <p>今年度よりSNSの公式運用が始まり、InstagramやTwitterの更新も効果的に行うことができた。本校の魅力や入試情報を世間により広く発信できるようになったほか、今まで運用してきたホームページやエデュログとも連携してより効果的にそれぞれへのアクセスを促進している。また、体育祭では保護者の要望に応え一部競技のライブ配信を行った。その結果、ホームページ（エデュログ）へのアクセス数は過去10年間の中で第2位となった。年度当初に目標としていたアクセス数30万件は突破できなかったものの、約25万アクセスと健闘することができた。</p> <p>上記のように校内外への情報提供において媒体が多様化したことにより即時性においてはSNSを、臨場性においてはライブ配信を、一般の方への親しみやすさの点ではエデュログを用いることによりあらゆるニーズに応じることができるようになった。</p>	A

#### 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
安心で安全なキャンパス整備	キャンパス整備計画に基づき、4月から新校舎建設に向け着工した。今年度中に2階部分までの基礎躯体工事を完了する予定である。建設工事と並行して、予測される動線を考慮して細部の設計変更を行っている。また、今後は新校舎建設後のキャンパス整備計画も一層の具体化を目指す。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

#### 新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

<p>本校は、人と人との交わりを基とした「人間力の育成」を目指した教育活動を行っていることを踏まえ、今年度については、過去に実施した大規模な自宅学習日の設定や分散登校を実施しない学校運営に努めた。その結果として、通常の授業に代わるオンライン授業は実施しなかったが、第1学年の総合的な探究の時間ではiPadでインスパイアハイの動画を視聴し、生徒同士で考え方や意見を共有しながら、新しい価値を発見する授業を展開した。また、学級活動、委員会活動でもiPadを有効に活用し、中でも生徒の学術発表を行うアカデミア明誠や文化祭で動画作成などを行い、生徒が情報技術を向上させるように導いた。これも、今年度に全生徒へのタブレット導入が完成した成果によるところが大きい。</p> <p>従来からのコロナ対策として、登校時の検温と手指消毒、マスク着用、常時換気、密を避ける行動等に加え、今年度も、黙食の徹底を心掛けた。1学期末に全国的にオミクロン株が猛威を振った時期を除けば、体育祭はもとより、模擬店等も企画した文化祭においても、感染者が出ることはなかった。</p> <p>コロナ発症時の連絡体制が家庭と学校間で十分に確立しているため、県、保健所、大学等関係機関への報告もスムーズであった。また、生徒・保護者と可能な範囲で情報を共有し、年間を通じて感染拡大防止の協力をお願いした。</p> <p>部活動については、年間を通じて19時完全下校を徹底し、感染者が出た部活動については、一定期間の活動停止を設け、感染拡大防止に努めた。</p> <p>昨年度は実施できなかった2年生の沖縄の修学旅行（本来はオーストラリア）も、今年度は、感染対策を徹底</p>
---

した上で行えたことや、昨年度の修学旅行の代わりとして行った3年生の研修旅行が実施できたことも、卒業後に高校生活を振り返った時に大きな意味を持つと思われる。

これからは文部科学省が定める感染防止マニュアルに従いながらも、行事を含む学校生活を質・量ともに100%実施することが、今後の課題となる。

## 令和5年度の取組目標及び方策

### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	<p>新2年生が新学習指導要領に基づく授業が開始される。シラバスを充実させ、授業を通して生徒が「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を理解させる。</p> <p>生徒が学習評価について理解できるように、シラバスに評価基準、評価の観点方法を示す。</p> <p>令和6年度から開始される新校舎で、全教員がアクティブラーニング的な授業を展開できるように教員研修を行う。</p>	<p>新学期開始前に教科ごとの担当者間で教育内容及び評価内容について意思疎通を行う。</p> <p>新校舎の使用が可能になり次第、教育設備で研修を開始できるように準備する。</p>
生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	<p>生徒は授業に意欲的に参加する意識が高く、積極的にノートを取り、タブレットを有効に活用できている。</p> <p>しかし、授業の目標や計画についての理解度が低く、予習、復習の習慣が定着していない。生徒が自主的に学ぶことができる教材を用意し、家庭学習を促すことで学んだ内容を定着させる。</p>	<p>新学期開始前に生徒が学習活動で定着していない内容を把握し、授業計画を立てる。</p> <p>生徒にシラバスの記載内容を授業開始時に理解させる。</p>
高大接続改革への対応	<p>生産工学部との連携教育をコロナ禍前の形式に戻していく。</p> <p>他学部との連携を進める。</p>	<p>1学期に生産工学部の担当者とは打合せを行う。2学期に実施内容、日程を確定する。</p>
I C T教育への取組	<p>全学年、全教員に導入されたタブレットを有効活用して教育活動を展開する。</p> <p>教員のタブレット活用能力を向上させるための研修会を数多く実施する。</p> <p>新校舎で充実したI C T教育を展開できるように教務部とI C T委員会で研修会を実施する。</p>	<p>新学期開始前に各教科でタブレットを使用した授業方法を策定する。</p> <p>各学期に1回以上、全教員を対象に、情報スキル向上のための研修会を実施する。</p>

### 学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	<p>いじめが重大事案に発展することなく、最小限に留められるように、早期発見のできる生徒・保護者との関係を築く。</p> <p>担任が一人で抱えるような状態を作らず、すぐに報告できるような連絡体制を取り、いじめの被害報告を受けた際は初期対応の重要性を意識しながら素早く対応する。</p> <p>授業担当者から生徒の様子を随時確認し、気になる生</p>	<p>4月～5月と9月～10月に各担任による二者面談を実施。学校生活やの状況や個々の悩みを確認する。</p> <p>7月と12月、三者面談で全校生徒を対象にアンケート調査を実施。</p> <p>事案発生の際は、随時「いじめ</p>

	<p>徒がいた場合は担任との連絡を密にとる。</p> <p>いじめ事案に対する対応の研修会等を行い、全体での共通理解を持って対応する。</p>	<p>防止対策委員会」を開催する。</p>
<p>学校生活の充実と外部評価の向上</p>	<p>今年度は様々な変更や改善を行ったが本当に大事なものは来年度からと考える。生徒が当事者意識を持てるように促していく。風紀委員会や生徒会生徒の意見も踏襲しながら、生徒発信でマナーや規範遵守の姿勢や行事の運営までできるような集団に生徒を導く。</p> <p>車内マナーや登下校時のマナーの改善を図る。下校指導や車内指導を従来どおり組織的に行いながら、結果的には生徒が教員の見えていない中でいかにきちんとできるかが重要になるため、生徒自身が自らの力で周囲に配慮して適切な行動を取ることができるように促していく。</p>	<p>始業式や終業式で全校生徒に通知する。その後は状況を見ながら、ICTツールを活用し、随時発信を続ける。</p> <p>風紀委員会を定期的実施し、校則やマナー改善などを検討する。</p> <p>車内指導や下校指導を実施して、状況を把握する。</p>

### 課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>生徒の自発的・自主的な生徒会活動への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事を生徒主体で企画・運営する。</li> <li>・目的（ねらい）・目標を明確化した行事運営をする。</li> <li>・リーダーシップの取れる生徒の育成をする。</li> <li>・計画的な行事の運営をする。</li> </ul>	<p>行事ごと、生徒主体の学校行事の運営を目指し指導していく。</p> <p>行事終了とともに反省をフィードバックし次回に生かすような流れを定着させる。</p> <p>行事の準備を始める前に、生徒・教員共に、その行事の目的（ねらい）・目標を確認して運営に当たる。</p> <p>視野を広げ、本部役員や全校生徒のリーダーシップをとれる生徒の育成を目指し、リーダーとしての自覚を持たせることから始め、経験する場を多く持たせる。</p> <p>生徒自身が計画を立て、軌道修正を仲間や教員と共にする流れをとる。</p>

### 進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>日本大学への進学者数増加に向けた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力到達度テストの成績を向上させる。</li> <li>・基礎学力を向上させるために長期休業における講習等を充実させる。</li> <li>・日本大学の教育や研究内容を生徒、保護者に理解してもらいミスマッチの起こらない指導を行う。</li> </ul>	<p>夏期・冬期講習（希望者）</p> <p>9月日本大学学部訪問（2年生）</p> <p>日本大学学部説明会（不定期）</p> <p>春期講習（1，2年生全員）</p> <p>オープンキャンパスや体験授業</p>

		等の案内（随時）
一貫性のある3年間の進路指導と生徒の学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路行事の流れ及び目的を丁寧に説明することで、生徒自身が自らの意志で希望進路に向かえるようにサポートする。</li> <li>・学力向上に必要な学習習慣や、学習方法についても面談や集会などでアドバイスする。</li> <li>・様々な受験形態に対応できるように小論文やプレゼンテーションのサポートを継続的に行う。</li> <li>・ICTを活用し、生徒に個別最適化して進路指導を実施する。</li> </ul>	3年日大チャレンジ模試（6月） 1・2年日大チャレンジ模試（2月） 1年実力診断テスト（5・10・1月） 2年実力診断テスト（5・10・1月） 基礎学力到達テスト対策講座（通年） 進路集会（不定期） 二者面談（不定期）

### 保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の健康維持と増進	身体測定・健康診断、性教育講座、違法薬物講座、卒業前教育、AED講習会の全学年で実施（保健体育科との連携）する。 強歩大会・修学旅行などの学校行事前の事前健康調査を実施する。	身体測定・健康診断実施（4月） 違法薬物講座、性教育講座、AED救命講習会 毎月「保健だより」の発行、「生徒相談室だより」の定期的な発行、卒業前講座、強歩大会・修学旅行など学校行事前の事前健康調査
生徒のボランティア活動・委員会活動の充実	校内外美化活動を実施する。 校内献血に対する啓発と協力要請をする。 保健委員会、美化委員会の活動の充実を図る。	学期ごとに各学年で校内外美化活動の実施 2,3学年生徒対象校内献血（11月、2月） 保健委員会から保健に関する呼びかけ（各行事） 美化週間の設定（年5回）

### 図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒への読書に対する啓発活動の継続	Classi を利用した図書だよりの発信内容の充実	年度当初に図書だよりの作成当番を図書部の教員で決定し、本の紹介やコラムを宣伝し、毎月の発行を目標とする。
生徒への読書に対する啓発活動の継続	第4回「ビブリオバトル大会」の実施	図書委員のみならず、一般生徒も参加を促しながら継続して実施し、学校の文化活動とする（5月学年別予選、アカデミア明誠において決勝大会、優勝者は校外の大会へ出場）。



		また、校外の大会にも募集をかけ参加するように啓発する。
--	--	-----------------------------

## 広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
印刷部による広報の充実	「日本大学学報」、「桜門春秋」、「日本大学広報」の記事編集・提出 「日本大学明誠高等学校広報」編集・作成, 学校案内の一層の充実, 進学雑誌広告の充実(新設)を図る。	4月：来年度入試用学校案内作成 6月：1学期末発行広報誌編集 11月：2学期末発行広報誌編集 2月：3学期末発行広報誌編集
ネットによる広報の充実	「inter-edu.com」とタイアップした学校広報の探求公式サイトへの充実, 公式サイトへのコンテンツの充実, 「edulog」の執筆・投稿に当たる。 新校舎建設状態についての最新情報を公開する。	4月 年間を通して「inter-edu.com」特別サイトの特集記事作成協力

## 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
安心で安全なキャンパス整備の実施	今年度は、令和6年度の新校舎利用開始に向けて、引き続き新校舎の建設工事を進める。 また、新校舎完成後の校舎利用について、具体的な検討を進める。	本部及び施工業者と連携し、大規模事業計画のスケジュールに従い建設工事を実施する。これと並行して、新校舎の具体的な利用計画について検討を行う。

## 中長期的目標の取組結果

### 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
授業内容を充実させて生徒の学力を向上させる。	各教科から成績不振に該当する生徒を学期ごとに指名し、補習や課題による指導を行った。また、一部の生徒については学期をまたいで指導を継続した。 OPEN DOOR(教員対象の公開授業)期間を年に2回設け、教科の指導力の向上と、タブレットの利用方法について研さんを重ねた。	A
教育活動でタブレットを有効に活用する。	各教科でタブレットを用いた授業展開を行い、授業によっては生徒の意見をタブレットを通して共有するなど工夫をした。また、課題等の配布及び回収などにもタブレットを活用することで、効率的な教育活動を進めた。1年生の「総合的な探究の時間」では、各自のタブレットで動画を視聴しながら、視野を広げる学習も行った。また、アカデミア明誠に向けて、1年生の各クラスにおいては、クラスCMの作成をタブレットを用いて行った。授業評価アンケートはもとより、文化祭のアンケートを行うなど、LHRでのタブレットの活用も積極的に行った。	A

### 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
安心で安全なキャンパスの構築	平成26年度にキャンパス整備計画を構築。計画に従い講堂兼体育館耐震補強工事, 屋外電気設備・給排水設備の切回し工事, 屋外練習場の設置, 校地の境界確定, 保安林指定地域の整備, がけ地安定化工事等を令和3年度までに実施した。	A

	これを受けて令和4年4月に新校舎建設を開始し、新校舎建設スケジュールに基づき令和4年度末に2階部分までの基礎躯体工事を完了するよう建設工事を進めている。	
--	--	--

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

## 中長期的目標及び方策

### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
授業内容を充実させて生徒の学力を向上させる。	教科会議で授業内容を充実させるための指導方法を検討する。 生徒が応用力を身につけることができるように指導する。 成績不振者に対して基礎学力が身につくような指導を行う。 全教員が教科指導力の向上を図る。	生徒の学力を向上させるシラバスを作成する。 放課後補習や長期休業期間中に講習を実施し、実力養成を行う。 各学期終了時に成績不振者補習を実施し、苦手分野を克服させる。
教育活動でタブレットを有効に活用する。	授業及びLHRや面談等でもタブレットを利用した教育活動を展開する。	教務とICT委員会が連携し、OPEN DOOR(研究授業)を実施し、指導方法の研究と共有を図る。 LHRのグループ学習では、生徒が主体的な学びをする際にタブレットを有効活用する。

### 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
安心で安全なキャンパスの構築	キャンパス整備計画にある新校舎建設に向けた大規模事業計画に基づく建設工事の実施 新校舎完成後のキャンパス活用計画について、新校舎を含めたキャンパス全体の視点から、より具体的な検討を進める。	令和4年度建設工事着工 令和5年度建設工事完了 令和6年度新校舎利用開始 新校舎を含めたキャンパス全体の活用計画検討